

短 報

カエル・サンショウウオ の異種間及び異常抱接例*

南部 久男

富山市科学文化センター

日本産両生類の異種間抱接例は、市川(1951)、田辺(1983)、松井・前田(1990)等の報告があるが、筆者が確認した異種間抱接例及び異常抱接例を報告する。

本報告に当たり、貴重な写真と情報を提供頂いた富山県北アルプス朝日小屋の下沢三郎氏に厚くお礼申し上げます。

観察例

第1例. 下沢三郎氏による観察例。

1989年7月26日午前9:00、北アルプス朝日岳から白馬岳へ向かう途中の通称「子桜原」(標高約1980m)の木道が設置してある湿地で、カエルがサンショウウオに抱接しているのが観察された。最初は胴部の前後に2個体が抱接していたが、近づき棒でつつくと前方の1個体が離れ、後方の1個体はそのまま残



図1 タゴガエルとハコネサンショウウオの抱接

っていたとのことである(図1)。

写真から判断すると、ハコネサンショウウオのメスとタゴガエルのオスと思われる。なお、近くには、タゴガエルの卵塊も発見されている(図2)。

カエルとサンショウウオの抱接例は、カスミサンショウウオとタゴガエルのオスの例が知られ(前田・松井、1990)、カエルどうしの異種間抱接例、ウシガエルとアズマヒキガエルのオス、アズマヒキガエルのメスとヤマアカガエルのオス、シュレーゲルアオガエルのメスとトウキョウダルマガエルのメス(前田・松井、1990)、ヤマアカガエルのオスとモリアオガエルのメス(田辺、1983)等に比べ少ない。

第2例. 筆者によるナガレヒキガエルの異常抱接の観察。1978年7月20日の日中、石川県金沢市森本川源流の、川底が岩盤状の谷川で、ナガレヒキガエルのオスを1個体を発見した。ナガレヒキガエルは筆者に近づき(図3)、さらに履いていた黒いゴム長靴に抱接しようとした(図4)。しかし、長靴が大きく抱接できず、長靴の周辺に留まっていたので、左手を差し出すと手首に抱接してきた(図5)。かなり強い力であり、歩いても離れようとせず、



図2 タゴガエルの卵塊

*富山市科学文化センター研究業績第109号

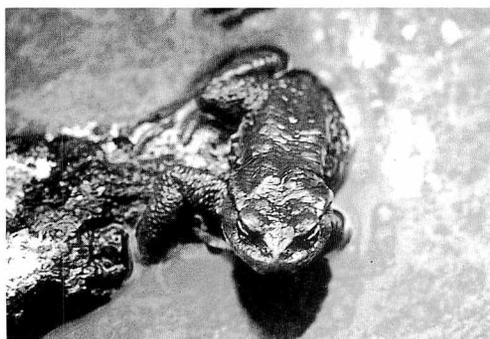


図3 近づいてきたナガレヒキガエル



図4 長靴に抱接しようとするナガレヒキガエル



図5 手首に抱接するナガレヒキガエル

むりやり引き離した。

本例はナガレヒキガエルの相手が人間であり、両者の体のサイズは非常に異なるにもかかわらず抱接してきたことから、ナガレヒキガエルは単に動きのあるものに近づいてきたと考えられる。このような行動が、ナガレヒキガエルに一般的な行動なのか、あるいはこの地域のナガレヒキガエルの行動なのかどうかは観察例が1例だけであり不明である。

なお、本観察地点は、ナガレヒキガエルの新産地として報告した(南部, 1980)。

第3例. 筆者によるクロサンショウウオの異常抱接の観察。1986年4月25日富山県八尾町の池(水温約18°C)でクロサンショウウオのオス1個体を採集した。池で確認された約200個の卵囊中に含まれる卵の発生段階はかなり進んでいたことより、繁殖期の最後まで残っていたオスと考えられる。水温約12°Cの保冷庫で飼育し、4月27日に手のひらに乗せると、1-2分間、指に強く抱接し、放精が認められた。2-3分後、再び手に乗せたが、1回目よりは緩く抱接した。その後3回手のひらに乗せたが、このような行動は観察されなかった。

文 献

- 市川衛, 1951. 蛙学. 裳華房, 東京, 156-157.
- 前田 憲男, 松井正文, 1990. 異種間抱接. 日本カエル図鑑. 文一出版, 東京, 187.
- 南部久男, 1980. ナガレヒキガエルの新産地. 富山市科学文化センター研究報告(2): 35-39, pls. 2.
- 田辺真吾, 1983. ヤマアカガエルとモリアオガエルの異種間抱接. 両生爬虫類研究会誌, (27): 22.